ⅱ　助産診断・技術学

１　目的

マタニティサイクルを中心とした対象とその家族の身体的・心理的・社会的状態をアセスメントし、対象の健康状態に応じた支援ができる能力を養う。

２　目標

⑴　女性のライフサイクルにおける性と生殖にかかわる助産活動に必要な理論を理解し、その展開のための基礎技術を習得する。
⑵　妊婦の正常経過とその逸脱を判断するために必要な基礎知識および技術を習得する。
⑶　妊婦およびその家族の健康状態に応じた支援を実践するための基礎的能力を習得する。
⑷　産婦の正常経過とその逸脱を判断し、対象およびその家族の健康状態に応じた支援を実践するための基礎的能力を習得する。
⑸　分娩経過に応じた分娩介助が実践できるための基礎的能力を習得する。
⑹　助産診断・技術の概念を理解し、褥婦・新生児の正常経過とその逸脱を判断するために必要な基礎知識および技術を習得する。
⑺　褥婦・新生児とその家族の健康状態に応じた支援を実践するための基礎的能力を習得する。
⑻　乳幼児の健康診査と健康状態に応じた支援を実践するための基礎的能力を習得する。

３　構成図

助産・診断技術学

１２単位

３００時間

- 助産過程の展開に必要な臨床判断　１単位（１５）
  - 助産過程の概要
  - 情報の把握に必要な観察・健康診査技術
  - 産婦・胎児のアセスメント・診断
- 助産過程の展開に必要な基礎技術　１単位（３０）
  - 助産活動を支える理論と技術
  - 保健指導活動・健康教育の技術、実際
  - 女性のライフサイクル各期への支援
  - 家族計画
- 妊娠期の助産診断・技術　２単位（４５）
  - 妊娠各期の助産診断の特徴
  - 妊娠の確定と妊娠週数および分娩予定日の算出
  - 妊婦の健康診査に必要な基礎技術
  - 妊婦と胎児の健康状態に関する情報と診断・アセスメント
  - 妊婦と胎児の健康生活に関する情報と診断・アセスメント
- 妊婦への支援　１単位（３０）
  - 正常経過にある妊婦への支援
  - 妊婦の健康生活を維持するための支援
  - 妊婦や家族の役割機能の調整、出産・育児準備への支援
  - ハイリスク・異常妊婦の診断・アセスメントと支援
  - 心理社会的ハイリスク妊産婦と家族への支援
- 分娩期の助産診断・技術と支援　１単位（３０）
  - 分娩期の助産診断の特徴
  - 産婦情報の把握に必要な健康診査技術
  - 分娩経過・産婦の健康状態に関する情報と診断・アセスメント
  - 胎児の健康状態および胎児付属物の状態に関する情報と診断・アセスメント
  - 分娩経過の予測に必要な情報の選択と予測
  - 産婦の健康生活に関する情報と診断・アセスメント
  - 正常経過にある産婦と家族への支援
  - 分娩期の正常からの逸脱の診断とケア
  - ハイリスク・異常産婦へのアセスメントと支援
- 分娩介助法　２単位（６０）
  - 正常分娩における分娩介助の意義と原理
  - 安全で安楽な分娩介助技術
  - 分娩期の臨床判断
  - 異常分娩・異常発生時のアセスメントと支援
- 産褥・新生児期の助産診断・技術　１単位（３０）
  - 産褥・新生児期の助産診断の特徴
  - 褥婦・新生児の健康診査に必要な技術
  - 褥婦の健康状態・健康生活に関する情報の収集と診断・アセスメント
  - 新生児の健康状態・健康生活に関する情報の収集と診断・アセスメント
- 褥婦・新生児への支援　２単位（４５）
  - 正常経過にある褥婦・新生児への支援
  - 母乳育児確立のための乳房管理
  - ハイリスク・異常褥婦新生児へのアセスメントと支援
- 乳幼児のアセスメントと支援　１単位（１５）
  - 産後期の助産診断の特徴
  - 乳幼児の健康診査に必要な技術
  - 産後期の母児の健康状態・健康生活に関する情報収集と診断・アセスメント
  - 正常経過にある乳幼児への支援
  - ハイリスク乳幼児への支援

授業科目	助産診断・技術学 助産過程の展開に必要な臨床判断	担当教員	専任教員☆ ①三輪晃子 外部講師☆ ②松野兼巳	単位数	1	時期	４～７月
				時間	１５		

目的と目標	
	目的 周産期における臨床判断の必要性と概要を理解する。 目標 １　助産過程の概要について理解できる。 ２　科学的根拠に基づき対象の変化を捉える観察の必要性が理解できる。 ３　助産診断を基に対象の健康状態、健康生活について支援することの必要性が理解できる。 ４　助産診断過程・実践過程を繰り返し、助産過程の展開を実践することが理解できる。 ５　主体的・対話的に学ぶことで、助産師のように考え行動するための学習方法が理解できる。

回数	学習課題	内　　容	方法	担当教員	備考
1	助産過程の概要	1　助産診断・技術学成立の経緯 2　助産過程の概要 (1)　助産診断過程 (2)　助産実践過程 (3)　助産評価課程 3　助産診断学の概要 4　助産技術学の概要 5　助産診断・助産実践に重要な概念	講義	専任教員 ①三輪晃子	
2 3	情報の把握に必要な観察・健康診査技術 安全・安楽な技術	1　臨床推論と臨床判断 2　臨床判断モデルの展開 1) 対象の情報収集と診断 (1)　予期・初期把握のための情報収集と診断 ①　対象把握 ②　状況予測 ③　結果報告 2)　対象の健康診査に必要な知識・技術 (1)　問診 (2)　外診 ①　視診 ②　聴診 ③　触診 ④　計測診 (3)　内診 3)　臨床判断をふまえた支援計画の立案 4)　理解を促す説明とセルフケア能力を高める保健指導・支援 (1)優先度をふまえた支援 (2) 支援計画の修正 5)　支援結果報告 6)　支援後のリフレクション (1)　目標到達度の判定 (2)　助産過程の評価 7)　支援後の記録	講義 グループワーク	専任教員 ①三輪晃子 外部講師 ②松野兼巳	

4 5 6	臨床判断モデルの展開	1　臨床判断モデルの展開 1)　事例(妊娠・分娩・産褥・新生児期いずれか)の展開 2)　助産診断による状況・経過・予測診断 3)　支援計画の立案 4)　必要な支援の実践・評価	講義 演習 グループワーク	専任教員 ①三輪晃子 外部講師 ②松野兼巳	
7		2　臨床判断モデルの展開（実践） 1)　分娩事例の展開 2)　助産診断による状況・経過・予測診断 3)　支援計画の立案 4)　必要な支援の実践・評価	技術チェック		分娩介助法関連技術チェック
8	まとめ(1 時間) 省察	1　まとめ 1)　助産師教育の技術項目と卒業時の到達度 2)　助産師に求められる実践能力	講義		

評価方法
演習 50%　レポート 50%

教科書・参考図書
助産師の声明／コア・コンピテンシ
看護六法
マタニティ診断ガイドブック
助産学講座 1～10
助産師基礎教育テキスト 1～7
基礎看護技術（看護で使用したもの）

☆担当教員の実務経験	①　②助産師として医療機関に勤務した経験を生かした授業展開をする。

授業科目	助産診断・技術学 助産過程の展開に必要な基礎技術	担当教員	専任教員☆ ①岡田多恵子 ②山田有加 ③安井真奈美 外部講師☆ ④中村暁子 ⑤前田キヤ子	単位数	1	時期	4～7月
				時間数	３０		

目的と目標

目的

女性のライフサイクルにおける性と生殖にかかわる助産活動に必要な理論を理解し、その展開のための基礎技術を習得する。

目標

1　根拠に基づく助産活動を支える基礎理論が理解できる。
2　相談・教育・援助活動に必要な基礎技術が理解できる。
3　対象の特性に応じた保健指導の必要性を理解し、具体的なアプローチについて考察できる。
4　健康教育のプロセスとその展開に必要な技術について理解できる。
5　女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康問題への支援について考察できる。
6　家族計画指導に必要な基礎知識と技術が習得できる。
7　助産学における研究の意義や基本的手法および研究過程が理解できる。

回数	学習課題	内　　容	方法	担当教員	備考
1	助産活動を支える理論と技術	1　援助の基本 (1)　母子の安全と安楽 (2)　セルフケア 2　援助技術の基本 (1)　対象の理解 (2)　問題解決のプロセス (3)　根拠に基づく助産活動（EBM） 3　助産学における研究の意義 (1)　研究における倫理 (2)　実践と研究 (3)　研究過程の概要 4　教育技術 5　相談技術	講義	専任教員 ①岡田多恵子	
2	保健指導活動の技術	3　健康教育の基本 (1)　ヘルスプロモーションと健康教育 (2)　健康教育の目的・目標・プロセス 4　健康教育の準備・計画 (1)　健康教育の準備 (2)　企画書の作成 (3)　指導案の作成 5　健康教育に用いる教育技術 (1)　学習方法 (2)　教育の形態	講義	専任教員 ①岡田多恵子	認定講習
3 4 5	保健指導活動の実際	1　個人指導の実際（指導案の作成） (1)　マタニティサイクルに必要な個人指導の準備・計画 ①　授乳指導 ②　沐浴指導 ③　退院指導 ④　家族計画指導 ⑤　家庭訪問	講義 演習	専任教員 ①岡田多恵子	認定講習

		⑥　電話相談 (2)　個人指導の実践 2　集団指導の実際（運営計画の作成） (1)　母親学級の準備・計画 ①　対象の学習ニーズのアセスメント ②　教育目的・学習目標の設定 ③　指導計画書の作成(学習内容の選択) ④　実施方法の選択 ⑤　教材の作成 ⑥　運営の準備 ⑦　評価 (2)　母親学級の実践			
6	保健指導活動の実際	1　歯，口腔の発育・発達と異常 (1)　歯，口腔の発生と発育 (2)　摂食と口腔機能の発達 (3)　乳幼児のう蝕 2　妊産褥婦、乳児の歯科保健 (1)　妊産婦の歯科保健 (2)　褥婦の歯科保健 (3)　乳児の歯科保健	講義	専任教員 ③安井真奈美	
7	保健指導活動の実際	1　助産と補完代替医療 2　東洋医学 (1)　東洋医学の基礎理論 ①　人体のとらえ方と病因論 ②　鍼灸医学の特色と治療 (2)　助産に応用する鍼灸（ツボ）療法 3　アロマセラピー (1)　伝統医学としてのアロマセラピー ①　作用・副作用 ②　使用方法 (2)　助産の現場での活用 4　タッチケア (1)　タッチケアの意義と効果 (2)　タッチケアの実際 5　リフレクソロジー 6　自然療法 (1)　中医学 (2)　アーユルヴェーダ医学 (3)　マタニティ・ヨーガ (4)　ホメオパシー (5)　骨盤ケア（整体） 7　ベビーマッサージ	講義	外部講師 ④中村暁子	
8 9	女性のライフサイクル各期への支援	1　思春期女性への支援 (1)　アイデンティティ（セックス、ジェンダー）の形成 (2)　性と生殖に関する健康教育 (3)　性行動に関する意思決定	講義	外部講師 ⑤前田キヤ子	認定講習

		(4)　性暴力被害の予防と支援 2　成熟期女性への支援 (1)　性と生殖に関する健康教育 (2)　性、不妊、人工妊娠中絶へのカウンセリング (3)　就労女性の労働衛生 (4)　性暴力被害の予防と支援			
10		3　更年期女性への支援 (1)　更年期の特徴 ①　身体的特徴 ②　心理・社会的特徴 (2)　健康生活への援助 ①　加齢現象の受容と自己コントロール能力の強化 ②　不定愁訴への援助 ③　セクシュアリティに関する援助 4　老年期女性への支援 (1)　老年期の特徴 (2)　健康生活への援助	講義	専任教員 ①岡田多恵子	認定講習
11 12 13 14	家族計画	1　家族計画に関する基礎知識 2　家族計画に必要な法的知識 (1)　母子保健法 (2)　母体保護法 (3)　薬事法 3　家族計画の実際 (1)　受胎調節法 ①　基礎体温法 ②　コンドーム ③　経口避妊薬 ④　IUD、IUS (2)　指導に必要な基礎知識	講義 演習	専任教員 ②山田有加	認定講習
15	まとめ（1時間）		講義	専任教員 ①岡田多恵子	
	試験　（1時間）	筆記試験		専任教員 ①岡田多恵子	

評価方法
【筆記試験（80%）演習（20%：レポート・実技）】100 点
（専任教員①１～５、１０～１５、②６　外部講師③７　外部講師④８～９）

教科書・参考図書
助産学講座１・３・５
助産師基礎教育テキスト６
母子保健マニュアル
受胎調節指導用テキスト
看護六法

☆担当教員の実務経験	①②⑤助産師として医療機関に勤務した経験を生かした授業展開をする。 ③歯科衛生士として医療機関に勤務した経験を生かした授業展開をする。 ④助産師として医療機関に勤務している経験を生かした授業展開をする。

授業科目	助産診断・技術学 妊娠期の助産診断・技術	担当教員	専任教員☆ ①岡田多恵子 外部講師☆ ②松野兼巳	単位数	2	時期	4～7月
				時間数	４５		

目的と目標	
	目的 妊婦の正常経過とその逸脱を判断するために必要な基礎知識および技術を習得する。 目標 1　妊娠期の助産診断の特徴と診断類型について理解できる。 2　助産過程の展開に必要な基礎助産技術が理解できる。 3　妊娠期の助産診断に必要な助産技術が習得できる。 4　妊娠経過および母児の健康状態、健康生活について診断できる。

回数	学習課題	内　　容	方法	担当教員	備考
1	妊娠各期の助産診断の特徴	1　妊娠期の助産診断の特徴と診断類型 (1)　妊娠期の助産診断の特徴 ①　妊娠初期 ②　妊娠中期 ③　妊娠末期 (2)　妊娠期の助産診断類型 ①　助産診断の種類 ア　経過診断 イ　健康生活診断 ②　診断類型の見方	講義	専任教員 ①岡田多恵子	
2	妊娠の確定と妊娠週数および分娩予定日の算出	1　妊娠の診断 (1)　妊娠の早期診断の意義 (2)　妊娠の診断方法 ①　妊娠の診断 ア　自覚症状 イ　免疫学的妊娠反応 ウ　超音波診断 エ　基礎体温表 オ　内診（子宮の変化） カ　外診（乳房・外陰部の変化） ②　分娩予定日の算定と予定日修正 ア　最終月経　（妊娠暦・ネーゲレ概算法） イ　基礎体温・受胎日・胎動初覚 ③　妊娠週数の算定 ア　最終月経・分娩予定日 イ　超音波断層法による胎児の計測値 ウ　子宮底長計測値	講義	専任教員 ①岡田多恵子	
3 4 5 6 7 8 9 10	妊婦の健康診査に必要な基礎技術	1　健康診査の意義 2　妊婦の健康診査に必要な技術 (1)　問診 (2)　外診（視診・聴診・触診・計測診） (3)　内診 (4)　骨盤外計測・内診技術 (5)　着帯 ※　妊婦健康診査に必要な診察技術について確認・演習する。(1)(2)については科目の終了までに技術試験を行う。	講義 技術演習	専任教員 ①岡田多恵子 外部講師 ②松野兼巳	

11 12 13	妊婦と胎児の健康状態に関する情報と診断・アセスメント	1　母体の健康状態のアセスメント (1)　全身所見 ①　バイタルサイン ②　体重・腹囲・子宮底長 ③　浮腫・排泄機能・静脈瘤 (2)　血液検査 (3)　尿検査 (4)　子宮収縮 2　胎児の発育・健康状態のアセスメント (1)　胎児の生存の確認 (2)　胎児発育の評価 ①　腹囲・子宮底長 ②　超音波断層法による計測値 (3)　胎児の位置 (4)　胎児の機能の評価 ①　胎児心拍モニタリング ②　胎動の観察 ③　胎児胎盤機能検査 ア　生理学的検査（BPS，NST，CST） イ　生化学的検査（E_3，hPL） (5)　形態の評価 3　胎児付属物のアセスメント (1)　羊水量 (2)　胎盤の位置 (3)　感染のスクリーニング 4　今後の経過予測	講義 演習 (事例展開)	専任教員 ①岡田多恵子 外部講師 ②松野兼巳	
	※　妊婦・胎児の健康状態、健康生活の診断・アセスメントについて紙上事例を用いた演習により学習する。				
14 15 16 17 18 19 20 21 22	妊婦と胎児の健康生活に関する情報と診断・アセスメント	妊婦の健康生活のアセスメント 1　基本的生活行動 (1)　食事 (2)　排泄行動 (3)　睡眠・休息 (4)　動作・運動 (5)　清潔行動 2　精神・心理的生活行動 (1)　妊娠の受容・妊娠の価値 (2)　情緒（性格）・不安への対応 (3)　ボディイメージ 3　社会的生活行動 (1)　妊婦としての役割（母親役割） (2)　パートナーとの関係（性生活） (3)　家族関係（生活習慣） (4)　支援体制（就労・社会資源の活用） (5)　役割調整（生活環境） 4　出産育児行動 (1)　マイナートラブルへの対処行動 (2)　身体的準備 (3)　必要物品の準備 (4)　心の準備 (5)　バースプラン (6)　出産・育児の学習行動	講義 演習 (事例展開 臨床判断)	専任教員 ①岡田多恵子 外部講師 ②松野兼巳	

	※　妊娠経過および母児の健康状態、健康生活に関する情報の収集と診断・アセスメントについて紙上事例を用いた演習により学習する。 妊娠 28 週　妊婦診察 妊娠 32 週　妊娠週数に応じた健康状態の診断 妊娠 36 週　妊娠週数に応じた健康生活の診断				
23	試験（１時間）	筆記試験		専任教員 ①岡田多恵子	

評価方法
【筆記試験(70%)　演習（30%：レポート・実技)】100 点
（専任教員１～２２）

教科書・参考図書
助産学講座３・５・６
助産師基礎教育テキスト４・７
最新産科学（正常編・異常編）
助産師のためのフィジカルイグザミネーション
根拠と事故防止からみた母性看護技術
写真でわかる助産技術
マタニティ診断ガイドブック
胎児心拍数モニタリング講座
母子健康手帳
病気がみえる⑩（産科）

☆担当教員の実務経験	①②助産師として医療機関に勤務した経験を生かした授業展開をする。

授業科目	助産診断・技術学 妊婦への支援	担当教員	専任教員☆ ①岡田多恵子 外部講師☆ ②松野兼巳 ③淵　弘美	単位数	1	時期	４～７月
				時間数	３０		

目的と目標	
	目的 妊婦およびその家族の健康状態に応じた支援を実践するための基礎的能力を習得する。 目標 １　妊娠時期や対象のニーズに応じた援助が理解できる。 ２　妊婦のセルフケア能力の向上や親役割の適応に向けた具体的な支援について考察できる。 ３　ハイリスク・異常妊婦の健康状態に応じた援助が理解できる。 ４　ハイリスク・異常妊婦の管理・支援に必要な保健医療福祉チームとの連携、社会資源の活用について理解できる。

回数	学習課題	内　　容	方法	担当教員	備考
1 2	正常経過にある妊婦への支援	1　妊娠期のケアの理念・特徴 2　妊娠経過に応じたケア	講義 演習	専任教員 ①岡田多恵子	
3 4 5	妊婦の健康生活を維持するための支援	1　日常生活へのケア (1)　妊娠期の保健指導 (2)　栄養摂取と食生活行動 ①　妊婦の食事摂取基準 ②　望ましい食生活と栄養摂取 ③　嗜好品 ④　体重のコントロール (3)　排泄，排泄習慣行動 ①　排尿 ②　排便 (4)　睡眠、休息 ①　睡眠 ②　休息・リラクゼーション (5)　動作、運動 ①　姿勢・日常生活動作 ②　運動・体操 ③　移動・旅行 (6)　清潔習慣行動 ①　身体 ②　口腔衛生 (7)　衣服・靴 (8)　性生活 (9)　マイナートラブル	講義 演習 (事例展開)	専任教員 ①岡田多恵子 外部講師 ②松野兼巳	
6 7 8 9	妊婦や家族の役割機能の調整、出産・育児準備への支援	1　親になる準備へのケア (1)　親役割の準備 ①　母親役割 ②　父親役割 (2)　家族の役割機能の変化 (3)　出産・育児の準備 ①　出産準備教育 ②　バースプラン ③　母乳栄養 2　心理的・社会的ケア (1)　心理的変化への支援	講義 演習 (事例展開) (臨床判断)	専任教員 ①岡田多恵子 外部講師 ②松野兼巳	

		(2)　定期健診受診への支援 (3)　社会資源の活用			
	※　妊婦健康診査の結果を基に、妊娠時期、妊娠経過、妊婦のニーズに応じたケア（保健指導）について紙上事例を用いた演習により学習する。 妊娠 28 週　セルフケア能力の向上 妊娠 32 週　健康増進、正常からの逸脱予防 妊娠 36 週　妊婦ニーズ、個別性に応じた出産・育児準備				
10	ハイリスク・異常妊婦の診断・アセスメント	1　ハイリスク・異常妊婦のアセスメント (1)　身体的ハイリスク因子のアセスメント ①　全身状態の観察・バイタルサイン ②　産科歴 ③　基礎疾患を持つ妊婦の管理 (2)　心理的・社会的ハイリスク因子のアセスメント ①　妊娠の受容 ②　出産体験 ③　家族関係 ④　婚姻 ⑤　経済状況	講義	専任教員 ①岡田多恵子	
11	心理社会的ハイリスク妊産婦と家族への支援	1　心理社会的ハイリスク妊産婦と支援 (1)　若年妊産婦 (2)　未婚女性 (3)　外国人妊産婦 (4)　子どもの喪失 (5)　多胎児の子育て (6)　障がい児の子育て	講義	外部講師 ③淵　弘美	
12		2　親役割獲得が困難な人々への支援 (1)　胎児虐待 (2)　児童虐待 ①　児童虐待とは ②　児童虐待の対応と予防		専任教員 ①岡田多恵子	
13	ハイリスク・異常妊婦への支援	1　身体的ハイリスク・異常妊婦への支援 (1)　異常妊婦へのケア ①　妊娠悪阻 ②　切迫流産・早産 ③　妊娠高血圧症候群 ④　妊娠貧血 ⑤　前置胎盤 ⑥　常位胎盤早期剥離 (2)　合併症をもつ妊婦へのケア ①　心疾患 ②　腎疾患 ③　妊娠糖尿病 ④　精神疾患 2　心理的ハイリスク妊婦へのケア (1)　妊娠の受け入れ困難 (2)　出産に対する不安 (3)　胎児への愛着形成困難	講義	外部講師 ③淵　弘美	

		３　社会的ハイリスク妊婦へのケア ⑴　経済的問題 ⑵　サポート資源の不足 ４　特殊な状況にある妊婦のケア ⑴　多胎妊娠 ⑵　不妊治療後の妊娠 ⑶　先天異常児の妊娠 ⑷　子宮内胎児死亡			
14		５　特殊な状況にある妊婦のケア ⑴　若年妊娠 ⑵　高年妊娠 ⑶　外国人の妊婦 ⑷　虐待		専任教員 ①岡田多恵子	
15	まとめ（１時間）		講義	専任教員 ①岡田多恵子	
	試験　（１時間）	筆記試験		専任教員 ①岡田多恵子	

評価方法
【筆記試験（80%）　演習（20%：レポート・実技）】100 点
（専任教員①1~10、15　外部講師③11~14　）

教科書・参考図書
助産学講座３・５・６
助産師基礎教育テキスト４・７
最新産科学（正常編・異常編）
助産師のためのフィジカルイグザミネーション
根拠と事故防止からみた母性看護技術
写真でわかる助産技術
マタニティ診断ガイドブック
胎児心拍数モニタリング講座
母子健康手帳
病気がみえる⑩（産科）

☆担当教員の実務経験	①②助産師として医療機関に勤務した経験を生かした授業展開をする。 ③助産師として医療機関に勤務している経験を生かした授業展開をする。

授業科目	助産診断・技術学 分娩期の助産診断・技術と支援	担当教員	専任教員☆ ①岩田真美 外部講師☆ ②神谷景子	単位数	1	時期	５～７月
				時間	３０		

目的と目標

目的

産婦の正常経過とその逸脱を判断し、対象およびその家族の健康状態に応じた支援を実践するための基礎的能力を習得する。

目標

1　分娩期の助産診断の特徴と診断類型について理解できる。
2　分娩経過および母児の健康状態、健康生活について診断できる。
3　分娩経過や対象のニーズに応じたケアが理解できる。
4　産婦の主体性を尊重した安全で安楽な分娩への具体的な支援について考察できる。
5　ハイリスク・異常産婦の健康状態に応じたケア方法が理解できる。
6　ハイリスク・異常産婦の管理・支援に必要な保健医療福祉チームとの連携、社会資源の活用について理解できる。

回数	学習課題	内　　容	方法	担当教員	備考
1	分娩期の助産診断の特徴	1　分娩期の助産診断の特徴 2　分娩期の助産診断類型 (1)　経過診断 (2)　健康生活診断 3　分娩期の臨床判断	講義	専任教員 ①岩田真美	
2	産婦情報の把握に必要な健康診査技術	1　産婦の健康診査 (1)　健康診査の目的 (2)　産婦の健康診査に必要な技術 ①　問診 ②　外診（視診・聴診・触診・計測診） ③　内診 2　分娩開始の診断 (1)　分娩発来の前兆 (2)　分娩開始 (3)　入院時の初期診断	講義 演習 (事例展開)	専任教員 ①岩田真美	
3	分娩経過・産婦の健康状態に関する情報と診断・アセスメント	1　母体の状態のアセスメント (1)　分娩経過 ①　分娩の三要素 ②　産婦の自覚症状や産痛の変化 ③　フリードマン陣痛曲線 ④　パルトグラム ⑤　胎児の下降状況 ⑥　児頭の回旋 ⑦　胎盤剥離徴候 (2)　全身状態		専任教員 ①岩田真美	
4	胎児の健康状態および胎児付属物の状態に関する情報と診断・アセスメント	1　胎児の状態のアセスメント (1)　胎児の位置 (2)　健康状態 ①　胎児心拍陣痛図 ②　血液ガス分析 2　胎児付属物の状態のアセスメント (1)　羊水の性状 (2)　破水の診断		専任教員 ①岩田真美	

5 6	分娩経過の予測に必要な情報の選択と予測	1　分娩予測 (1)　胎児娩出時間 (2)　児の推定体重 (3)　今後の経過			
7	産婦の健康生活に関する情報と診断・アセスメント	1　産婦の健康生活のアセスメント (1)　基本的生活行動 (2)　精神・心理的生活行動 ①　情緒 ②　対処行動 ③　出産の受容 (3)　社会的生活行動 ①　パートナーとの関係 ②　支援体制 ③　役割 (4)　出産育児行動 ①　リラクゼーション ②　児への愛着	講義 演習 (事例展開)	専任教員 ①岩田真美	
	※２～７　産婦と胎児の健康状態・健康生活・分娩予測に関する情報の収集と診断・アセスメントについて紙上事例を用いた演習（産婦の入院時の取り扱い）により学習する。				
8 9 10	正常経過にある産婦と家族への支援	1　産婦支援の基本 (1)　産婦の意思・主体性の尊重 (2)　産婦と家族の協働 (3)　心身の苦痛の緩和 (4)　ドゥーラ効果 (5)　胎児へのストレスの軽減 2　入院時のケア 3　分娩第１期のケア (1)　分娩経過の観察 (2)　基本的欲求の充足 (3)　出産環境への配慮 (4)　産痛緩和・安楽 (5)　分娩促進 (6)　体位の選択 (7)　家族へのケア 4　分娩第２期のケア (1)　分娩経過の観察 (2)　基本的欲求の充足 (3)　快適さへのケア (4)　娩出力に応じた呼吸、努責の指導 5　分娩第３期のケア (1)　胎児付属物の娩出経過の観察 (2)　出血および全身状態の観察 (3)　基本的欲求の観察 6　分娩後２時間までのケア (1)　出血・子宮復古状態の観察 (2)　基本的欲求の充足 (3)　母児の早期接触 (4)　母児と父・家族との対面 (5)　産婦と家族の分娩体験の想起	講義 演習 (事例展開)		
	※　紙上事例の診断・アセスメント結果を基に、産婦ニーズ、分娩経過に応じたケアについて演習により学習する。				

	入院時（分娩時期、母児の健康状態、分娩予測） 分娩第１期（産痛緩和、分娩促進、家族へのケア） 分娩第２期・３期（産婦ニーズ・個別性に応じた主体的な分娩を支えるケア） 分娩第４期　（分娩評価、産後への影響をふまえたケア）				
11 12	分娩期の正常からの逸脱の診断とケア	１　身体的ハイリスク因子のアセスメント (1)　全身状態の観察 (2)　産科歴 (3)　娩出力 (4)　産道 (5)　胎児と胎児付属物 (6)　分娩三要素の関係 ２　心理的・社会的ハイリスク因子のアセスメント (1)　妊娠の受容 (2)　出産体験 (3)　出産に関する知識不足	講義	専任教員 ①岩田真美	
13 14	ハイリスク・異常産婦へのアセスメントと支援	１　ハイリスク・異常産婦への支援の基本 (1)　正常経過逸脱の評価 (2)　分娩時に必要な検査結果の評価（採血・胎児心拍） (3)　緊急事態の予測と予防的対応 (4)　腹式帝王切開術後の支援 (5)　産科危機的出血・産科ショック等、緊急事態への対応 (6)　母子の救急搬送とチーム医療 ２　合併症をもつ産婦へのケア (1)　心疾患 (2)　腎疾患 (3)　血液疾患 (4)　糖尿病 (5)　子宮奇形・子宮筋腫 (6)　感染症 (7)　自己免疫疾患 (8)　妊娠高血圧症候群 (9)　精神疾患	講義	外部講師 ②神谷景子	
15	まとめ（１時間）		講義	専任教員 ①岩田真美	
	試験　（１時間）	筆記試験		専任教員 ①岩田真美	
評価方法 【筆記試験(80%)　演習(20%：レポート)】100 点 （専任教員①1~12、15　外部講師②13~14）					

教科書・参考図書 助産学講座３・４・７・８ 助産師基礎教育テキスト５・７ 最新産科学（正常編・異常編） 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 分娩介助学 根拠と事故防止からみた母性看護技術 写真でわかる助産技術 胎児心拍モニタリング マタニティ診断ガイドブック 病気がみえる⑩（産科）	
☆担当教員の実務経験	①助産師として医療機関に勤務した経験を生かした授業展開をする。 ②助産師として医療機関に勤務している経験を生かした授業展開をする。

授業科目	助産診断・技術学 分娩介助法	担当教員	専任教員☆ ①岩田真美 外部講師☆ ②松野兼巳 ③高田恵美	単位数	2	時期	6～12月
				時間数	60		

目的と目標	
	目的 分娩経過に応じた分娩介助が実践できるための基礎的能力を習得する。 目標 1　分娩介助の意義と正常分娩介助の原理が理解できる。 2　理論や科学的根拠に基づいた正常分娩介助法が理解できる。 3　正常分娩における分娩介助技術が習得できる。 4　異常発生時に必要な介入技術が習得できる。

回数	学習課題	内　　容	方法	担当教員	備考
1 2	正常分娩における分娩介助の意義と原理	1　分娩介助の意義と原理 2　正常分娩介助の原理 3　正常分娩介助法の原理 4　ポジティブな出産体験のための分娩期ケア	講義	専任教員 ①岩田真美	
3 4 5 6 7 8	安全で安楽な分娩介助技術（基礎）	1　分娩介助時の技術 (1)　分娩に向けた準備～清潔野作成 ①　分娩室の環境、機材準備 ②　手洗い、ガウンテクニック ③　産婦の準備（分娩体位） ④　外陰部洗浄（消毒） ⑤　清潔野の作成 (2)　分娩誘導～児娩出 ①　努責・呼吸の誘導 ②　肛門保護 ③　必要時の人工破膜・導尿 ④　会陰保護 ⑤　児頭娩出 ⑥　躯幹娩出 ⑦　出生直後の児の観察とケア ⑧　臍帯巻絡の確認と解除 ⑨　臍帯切断 (3)　胎盤娩出～帰室 ①　胎盤娩出 ②　胎盤の第一次検査 ③　母児の早期接触	講義 技術演習	専任教員 ①岩田真美 外部講師 ②松野兼巳	
9 10	安全で安楽な分娩介助技術（応用）	1　フリースタイル分娩介助法 (1)　フリースタイル分娩の特徴 (2)　分娩介助時の技術 ①　側臥位 ②　四つん這い ③　スクワット ④　立位	講義 技術演習	外部講師 ③高田恵美	
	※　産婦の生む力を最大限に引き出し、満足度を高める分娩介助技術（フリースタイル分娩）について学習する。				
11	安全で安楽な分娩介助技術（基礎）	2　分娩介助時の保健指導 (1)　効果的な努責・呼吸の誘導 3　胎児付属物の検査と計測・出血量計測 (1)　検査の必要性	講義 技術演習	専任教員 ①岩田真美	

12 13 14 15	安全で安楽な分娩介助技術（基礎）	(2)　観察項目・観察方法 (3)　胎内環境の評価 4　間接介助の役割・直接介助者との連携 5　助産録の記載 6　出生直後の新生児のケア (1)　呼吸の助成 (2)　アプガースコアの判定 (3)　保温 (4)　全身の観察 (5)　点眼 (6)　成熟度の判定 (7)　身体計測	講義 技術演習	専任教員 ①岩田真美 外部講師 ②松野兼巳	
※　分娩経過に応じた安全な分娩介助技術について学習する。 （①準備～分娩室入室～清潔野作成　②分娩誘導～児娩出　③胎盤娩出～帰室） ※　分娩経過に応じた安全で安楽な分娩介助技術について紙上事例を用いた（経過診断、産婦ニーズ、個別性に応じた助産ケアの実施等を行いつつ）演習により学習する。					
16 17 18 19 20 21 22 23	分娩期の臨床判断	1　臨床判断のプロセス（事例１） (1)　観察（情報の整理） (2)　入院時診断 (3)　初期計画 (4)　報告 (5)　リフレクション 2　臨床判断のプロセス（事例２） (1)　分娩進行の判断と診断修正 (2)　CTG 判読 (3)　分娩準備の判断 (4)　間接介助との連携 (5)　パルトグラム・助産録の作成 (6)　リフレクション 3　臨床判断のプロセス（事例３） (1)　分娩進行の判断と診断修正 (2)　医師への報告のタイミング (3)　分娩準備の判断 (4)　間接介助との連携 (5)　パルトグラム・助産録の作成 (6)　リフレクション	講義 グループワーク 技術演習	専任教員 ①岩田真美 外部講師 ②松野兼巳	
24 25	異常分娩・異常発生時のアセスメントと支援	1　異常分娩時の産婦へのケア (1)　娩出力の異常 (2)　産道の異常 (3)　胎位・回旋の異常 (4)　多胎分娩 (5)　胎児機能不全 (6)　異常出血 (7)　分娩損傷 2　産科手術および産科的医療処置 (1)　産科手術の必要性と意義 (2)　産科手術の介助とケア ①　急速遂娩法（吸引・鉗子） ②　骨盤位娩出術 (3)　産科医療処置の介助とケア ①　分娩誘発法・促進法	講義 技術演習	専任教員 ①岩田真美	

		②　クリステレル胎児圧出法 ③　胎盤用手剥離 ３　会陰切開術と会陰縫合術 ４　緊急時の対応 (1)　緊急時使用物品と薬剤 (2)　双手圧迫法 (3)　静脈路の確保・輸血 (4)　母子の蘇生技術 (5)　産婦・家族への説明と心理的援助			
	※　産婦と胎児の安全を守るための医療介入の実際と医師との連携、助産師の役割について演習により学習する。 異常分娩時の産婦ケア（骨盤位娩出術、吸引・鉗子分娩） 臨時応急の手当て（会陰切開術・縫合術）				
26	試験　（１時間）	分娩介助実技試験		専任教員 ①岩田真美	
27 28 29 30	分娩期の臨床判断	１　臨床判断のプロセス（事例１） (1)　観察（情報の整理） (2)　入院時診断 (3)　初期計画 (4)　報告 ２　臨床判断のプロセス（事例２） (1)　分娩進行の判断と診断修正 (2)　CTG 判読 (3)　分娩準備の判断 (4)　間接介助との連携 (5)　パルトグラム・助産録の作成 (6)　リフレクション ３　臨床判断のプロセス（事例３） (1)　分娩進行の判断と診断修正 (2)　医師への報告のタイミング (3)　分娩準備の判断 (4)　間接介助との連携 (5)　パルトグラム・助産録の作成 (6)　リフレクション	講義 グループワーク 技術演習	専任教員 ①岩田真美 外部講師 ②松野兼巳	
31	試験（１時間）	実技試験		専任教員 ①岩田真美	

評価方法
【7 月実技試験(50%)　4・6・12 月実技試験(30%)　レポート（20%)】100 点
（専任教員①1~8、11~31　外部講師③9~10）

教科書・参考図書
助産学講座３・４・７・８
助産師基礎教育テキスト５・７
最新産科学（正常編・異常編）
助産師のためのフィジカルイグザミネーション
分娩介助学
フリースタイル分娩介助法
根拠と事故防止からみた母性看護技術
写真でわかる助産技術
胎児心拍モニタリング
マタニティ診断ガイドブック
病気がみえる⑩（産科）

<table>
<tr><td colspan="2">学習要件：科目履修前（4月中）に無菌操作についての技術チェックを受けること
分娩介助実習開始前（7月中）に分娩介助技術について実技試験を受けること
（目標：80点以上　合格：60点以上）</td></tr>
<tr><td>☆担当教員の実務経験</td><td>①②助産師として医療機関に勤務した経験を生かした授業展開をする。
③助産師として医療機関に勤務している経験を生かした授業展開をする。</td></tr>
</table>

授業科目	助産診断・技術学 産褥・新生児期の助産診断・技術	担当教員	専任教員☆ ①三輪晃子 外部講師☆ ②松野兼巳	単位数	1	時期	4～7月
				時間数	３０		

目的と目標	
	目的 　助産診断・技術の概念を理解し、褥婦・新生児の正常経過とその逸脱を判断するために必要な基礎知識および技術を習得する。 目標 １　助産診断・技術の意義と助産診断過程について理解できる。 ２　産褥・新生児期の助産診断の特徴と診断類型について理解できる。 ３　産褥・新生児期の助産診断に必要な助産技術が習得できる。 ４　産褥経過および褥婦の健康状態、健康生活について診断できる。 ５　新生児の経過や健康状態、健康生活について診断できる。

回数	学習課題	内　　容	方法	担当教員	備考
1	産褥・新生児期の助産診断の特徴	1　産褥期の助産診断の特徴と診断類型 (1)　産褥期の助産診断の特徴 (2)　産褥期の助産診断類型 (3)　両親の発達的・社会的側面の健康状態の診断 2　新生児期の助産診断の特徴と診断類型 (1)　新生児期の助産診断の特徴 (2)　新生児期の助産診断類型	講義	専任教員 ①三輪晃子	
2 3 4	褥婦・新生児の健康診査に必要な技術	1　褥婦の健康診査に必要な技術 (1)　問診 (2)　外診（視診・聴診・触診・計測診） (3)　内診 2　新生児の健康診査に必要な技術 (1)　全身の診察 (2)　身体計測 (3)　成熟度評価	講義 技術演習	専任教員 ①三輪晃子 外部講師 ②松野兼巳	
	※　褥婦・新生児の健康診査に必要な診察技術について確認・演習する。 （母性看護学で学習した褥婦・新生児の観察、診察技術について予習しておくこと）				
5 6 7 8 9	褥婦の健康状態健康生活に関する情報の収集と診断・アセスメント	1　産褥期の心理社会的アセスメント (1)　心理社会的側面の診断 ①　生活の変化が心身に及ぼす影響 ②　出産体験の受容 ③　セルフケア能力 ④　母親意識・父親意識の発達 ⑤　家族関係 ⑥　居住地域の育児環境 ⑦　性意識・性行動 (2)　育児能力の診断 ①　児の受容 ②　児への愛着行動 ③　育児生活への対処行動 ④　栄養方法 ⑤　育児不安と対処行動 ⑥　母親役割・父親役割の取得 ⑦　上子の役割取得 ⑧　育児サポートの状態	講義 演習 （事例展開 臨床判断）	専任教員 ①三輪晃子 外部講師 ②松野兼巳	

	※　分娩から産後１か月の褥婦（新生児）の健康状態、健康生活の診断・アセスメントについて紙上事例を用いた演習により学習する。 褥婦の健康診査に必要な技術 産褥経過の診断 母乳栄養確立の診断 褥婦の心理社会的変化 褥婦の日常生活行動の充足と適応				
10 11 12 13 14	新生児の健康状態・健康生活に関する情報の収集と診断・アセスメント	１　新生児のフィジカル・アセスメント (1)　外観 (2)　バイタルサイン (3)　皮膚、皮膚色 (4)　頭部、顔面、体幹、性器、四肢 (5)　神経学的所見 ①　姿勢 ②　原始反射 (6)今後の予測 ２　出生直後の新生児のアセスメント (1)　児の全身状態の診断 ①　リスク因子の確認 ②　出生時の状態の評価と蘇生の判断 ア　アプガースコアと仮死の分類 イ　シルバーマンスコア ③　全身状態の観察 ア　外表奇形 イ　分娩損傷 ３　出生後 24 時間以内の新生児のアセスメント (1)　成熟度の判定 ①　身体計測評価 ②　成熟徴候 ③　成熟度評価 ア　Dubowitz の新生児成熟度判定法 イ　New Ballard 法 (2)　適応過程の評価 ①　全身状態、神経学的状態 ②　哺乳と排泄 ③　行動・社会的適応 (3)　母親との相互関係・家族関係 ４　日齢の診断 ５　新生児期の経過診断 (1)　生理的変化のアセスメント ①　排尿・排便の時期と性状の変化 ②　体重の変化 ③　生理的黄疸 ④　臍の変化 ⑤　頭部の変化 ⑥　皮膚の変化 (2)　一般状態のアセスメント ①　バイタルサイン、全身状態 ②　睡眠、意識状態、機嫌、活気 ③　哺乳状態 ④　排泄状態		専任教員 ①三輪晃子 外部講師 ②松野兼巳	

		(3)　発育状態 ①　体重の増加 ②　皮下脂肪の発育 ③　計測値 ④　感覚器の発達 ⑤　運動機能の発達 (4)　健康診査の結果と今後の予測 (5)　マススクリーニング 6　新生児期の健康生活診断 (1)　養護 ①　哺乳 ②　清潔 ③　安全 (2)　環境 ①　室内環境 ②　寝床内環境 ③　人的環境 7　注意を要する一般的な問題 (1)　胎児発育異常 (2)　呼吸障害 (3)　チアノーゼと心不全 (4)　多血と蒼白 (5)　嘔吐と腹部膨満 (6)　新生児けいれん (7)　病的黄疸 (8)　感染 (9)　なんとなくおかしい			
	※　出生から生後１か月の新生児の健康状態・健康生活の診断・アセスメントについて紙上事例を用いた演習により学習する。 新生児の健康診査、成熟度の判定に必要な技術 哺乳・栄養方法と成長・発達 安全・環境調整				
15	まとめ（１時間）		講義	専任教員 ①三輪晃子	
	試験　（１時間）	筆記試験		専任教員 ①三輪晃子	

評価方法
【筆記試験（80%）　演習（20%：レポート・実技）】100 点　　（専任教員 1~15）

教科書・参考文献
助産学講座４・７・８・９
助産師基礎教育テキスト６・７
新生児学入門
助産師のためのフィジカルイグザミネーション
マタニティ診断ガイドブック
最新産科学（正常編・異常編）
根拠と事故防止からみた母性看護技術
病気がみえる⑩（産科）

学習要件：
科目履修前（４月中）に褥婦・新生児の観察、乳房観察について技術チェックを受けること
（目標：80 点,以上　合格：60 点以上）

☆担当教員の実務経験	①②助産師として医療機関に勤務した経験を生かした授業展開をする。

授業科目	助産診断・技術学 褥婦・新生児への支援	担当教員	専任教員☆ ①三輪晃子 外部講師☆ ②服部美幸 ③山川不二子 ④渡辺裕美 ⑤松野兼巳	単位数	2	時期	4～7月
				時間数	45		

目的と目標

目的

褥婦・新生児とその家族の健康状態に応じた支援を実践するための基礎的能力を習得する。

目標

1　産褥経過や対象のニーズに応じた援助が理解できる。
2　新生児の適応経過や健康状態に応じた援助が理解できる。
3　褥婦の健康生活が維持・向上し、安心して育児を行える具体的な支援が考察できる。
4　新生児が適切な養護を受けられ、母子関係が促進できる具体的な支援が考察できる。
5　褥婦・新生児の援助に必要な基本的技術が習得できる。
6　ハイリスク・異常褥婦や新生児の健康状態に応じた援助方法が理解できる。
7　ハイリスク・異常褥婦や新生児の管理・支援に必要な保健医療福祉チームとの連携、社会資源の活用について理解できる。

回数	学習課題	内　　容	方法	担当教員	備考
1 2 3 4 5 6	正常経過にある褥婦への支援	1　日常生活の適応ならびに退行性変化促進へのケア (1)　栄養摂取と食生活行動 (2)　排泄、排泄行動 (3)　睡眠、休息 (4)　清潔行動 (5)　日常生活の行動拡大 (6)　子宮復古促進のためのケア (7)　会陰部創傷の治癒促進 (8)　産褥体操 2　心理社会的側面のケア (1)　母子関係形成の援助 (2)　家族関係の調節の必要性 (3)　メンタルヘルスのための支援 (4)　育児グループ、社会資源の活用 (5)　育児不安の軽減、虐待の予防 (6)　マタニティ・ブルーズ 3　家庭・社会生活へ向けてのケア (1)　家族計画、性生活指導 (2)　退院に向けての保健指導 (3)　出生にかかわる届出の指導 (4)　家庭訪問指導 (5)　職場復帰への指導 4　育児行動取得に対するケア (1)　育児技術の指導 (2)　授乳指導 (3)　母親役割・父親役割の取得 5　育児環境の調整 6　家族への支援 (1) 家族システムの再調整と役割分担 7　母乳栄養確立へのケア（基礎） (1)　母乳栄養に関する母親の意識 (2)　母乳分泌促進法 (3)　母乳分泌抑制法	講義 演習 (事例展開 臨床判断)	専任教員 ①三輪晃子 外部講師☆ ⑤松野兼巳	

		(4)　乳房管理法、乳房トラブルの予防 (5)　母乳量の評価 (6)　母乳哺育と社会資源 (7)　授乳指導			
	※　紙上事例の褥婦・新生児の健康診査の結果を用いて経日的変化・ニーズ・個別性に応じたケア計画を立案し、保健指導を実施する。 産褥復古の促進 授乳方法、母乳栄養の促進 育児・育児サポート 育児に必要な社会資源				
7 8	母乳育児確立のための乳房管理（応用）	1　乳房管理の実際 (1)　桶谷式乳房マッサージ	講義 技術演習	外部講師 ②服部美幸	
9 10		2　授乳支援の実際 (1) 母子のために合理的な授乳支援	講義 技術演習	外部講師 ③山川不二子	
11 12 13 14 15 16 17	正常経過にある新生児への支援	1　出生直後のケア (1)　気道の確保 (2)　保温と皮膚の乾燥 (3)　母子接触 (4)　母子標識 2生後 24 時間以内の新生児のアセスメント (1)　出生後の身体の清潔 (2)　呼吸・体温の維持 (3)　哺乳と排泄 (4)　与薬（点眼、K2 シロップ） (5)　母子関係・家族関係 (6)　感染予防 (7)　安全確保 3　新生児の基本的ケア (1)　栄養（哺乳・授乳・調乳・体重の増減・栄養摂取量） (2)　保温 (3)　清潔 (4)　排泄 (5)　感染防止 (6)　環境の整備 4　発育・発達を促進する援助 5　母子・親子関係を促進するケア 6　早期発見とケア (1)　先天性代謝異常検査 (2)　聴覚検査 7　家庭生活への移行と退院後の支援 (1)　退院に向けての準備 (2)　家庭訪問　新生児訪問指導 (3)　1か月健康診査	講義 演習 (事例展開 臨床判断)	専任教員 ①三輪晃子 外部講師☆ ⑤松野兼巳	
	※　紙上事例の褥婦・新生児の健康診査の結果を用いて経日的変化・ニーズ・個別性に応じたケア計画を立案し、保健指導を実施する。 胎外適応の促進 哺乳と栄養状態の維持 健康で円滑な家庭生活の促進 育児不安 1か月以降の児の成長・発達に必要なケア				

18 19 20 21	ハイリスク・異常褥婦へのアセスメントと支援	1　身体的ハイリスク因子のアセスメント (1)　退行性変化を妨げる要因 (2)　進行性変化を妨げる要因 (3)　産後の行動拡大に影響する要因 2　心理的・社会的ハイリスク因子のアセスメント 3　ハイリスク・異常褥婦への支援の基本 (1)　薬物療法 (2)　セルフケア能力 (3)　家族の支援態勢と調整 (4)　社会資源の活用 (5)　母子分離 (6)　保健医療職種間のチームワーク 4　不快症状へのケアとセルフケア指導 (1)　後陣痛の緩和 (2)　会陰部疼痛の緩和 (3)　脱肛・痔核の対処法 (4)　排泄障がいの対処法 5　異常状態・合併症をもつ褥婦のケア (1)　子宮復古不全 (2)　産褥早期出血、産褥晩期出血、 (3)　産褥熱 (4)　恥骨結合離開 (5)　静脈瘤および血栓性静脈炎 (6)　感染症 (7)　妊娠高血圧症候群 (8)　糖尿病・妊娠糖尿病 (9)　母子感染症 (10)　心疾患 (11)　乳頭損傷、乳腺炎 (12)　乳汁分泌不全 6　心理的異常をもつ褥婦へのケア (1)　産褥期精神障害 7　特殊な状況にある褥婦へのケア (1)　帝王切開術による出産 (2)　多胎出産 (3)　母子分離 (4)　不妊治療後の出産 (5)　低出生体重児の出産 (6)　流産、早産、死産 (7)　障がいをもつ児、予後不良児 (8)　母乳哺育を行えない/行わない褥婦 (9)　外国人	講義	専任教員 ①三輪晃子	
22	ハイリスク・異常新生児へのアセスメントと支援	1　ハイリスク因子のアセスメント (1)　妊娠・分娩による要因 (2)　母体側要因 (3)　胎児側要因 2　援助の基本 (1)　ハイリスク新生児のケアの視点 (2)　親・家族とのケアと協働 (3)　継続的観察	講義	外部講師 ④渡辺裕美	

		(4)　母子分離 (5)　授乳への援助 (6)　退院への援助 ３　生化学的適応を助けるケア ４　神経学的適応を助けるケア ５　ハイリスク新生児のケア (1)　低出生体重児 (2)　呼吸障害 (3)　先天性心疾患 (4)　小児外科疾患 (5)　脳神経外科疾患 ６　治療時のケア (1)　保育器での観察 (2)　光線療法 (3)　新生児集中治療室入院中の児 (4)　経管栄養法 (5)　輸液 (6)　手術 (7)　奇形 ７　家族へのケア (1)　他機関、他職種との連携 (2)　医療対策事業の活用 (3)　親への心理的援助 (4)　児への愛着形成 (5)　悲嘆への援助			
23	試験（１時間）	筆記試験		専任教員 ①三輪晃子	

評価方法

【筆記試験（80%）演習（20%：レポート・実技）】100 点

（専任教員①1～6、11~21 外部講師②7~8、外部講師③9~10、外部講師④22、外部講師⑤1～6、11~21）

教科書・参考図書

助産学講座４・７・８・９
助産師基礎教育テキスト６・７
新生児学入門
助産師のためのフィジカルイグザミネーション
マタニティ診断ガイドブック
最新産科学（正常編・異常編）
根拠と事故防止からみた母性看護技術
乳房管理学
ミルキーママの自分でできるおっぱいケア
母乳育児支援スタンダード
病気がみえる⑩（産科）

☆担当教員の実務経験	①⑤助産師として医療機関に勤務した経験を生かした授業展開をする。 ②③助産師として助産院に勤務している経験を生かした授業展開をする。 ④助産師として医療機関に勤務している経験を生かした授業展開をする。

授業科目	助産診断・技術学 乳幼児のアセスメントと支援	担当教員	専任教員☆ ①山田有加 外部講師 ②吉村さと子	単位数	1	時期	５～７月
				時間数	１５		

目的と目標	
	目的 　乳幼児の健康診査と健康状態に応じた支援を実践するための基礎的能力を習得する。 目標 １　乳幼児の健康状態を診断するために必要な基礎知識および技術が習得できる。 ２　正常経過にある乳幼児への支援が理解できる。 ３　ハイリスク乳幼児の健康状態に応じた支援のあり方が理解できる。

回数	学習課題	内　　容	方法	担当教員	備考
1	産後期の助産診断の特徴	1　産後期の助産診断の特徴と診断類型 (1)　産後期の助産診断の特徴 (2)　産後期の助産診断類型 (3)　産後期の臨床判断	講義	専任教員 ①山田有加	
2	乳幼児の健康診査に必要な技術	1　乳幼児の健康診査 (1)　乳幼児健康診査の目的と意義 2　乳幼児期の発育の評価 (1)　身体発育 (2)　精神運動の発育 3　乳幼児の健診に必要な技術 (1)　問診 (2)　計測 (3)　発達神経学的診査 (4)　視聴覚診査 4　乳幼児健診のポイント 5　乳幼児健診のシステムと事後措置	講義	外部講師 ②吉村さと子	
3 4 5	産後期の母児の健康状態・健康生活に関する情報収集と診断・アセスメント	1　母の健康状態のアセスメント (1)　母の心身の状態と育児への影響 2　児の健康状態のアセスメント (1)　発育・発達のアセスメント 3　産後期の心理社会的アセスメント (1)　心理社会的側面の診断 (2)　出産育児行動の診断 (3)　家族関係　役割調整 ＊生後４か月の健康状態、健康生活の診断・アセスメントについて紙上事例を用いた演習により学習する。	講義 (事例展開 臨床判断)	専任教員 ①山田有加	
6	正常経過にある乳幼児への支援	1　乳幼児期におけるケアの姿勢 2　身体発育を促進するケア (1)　発育時期に即した栄養 3　社会性を育むケア (1)　遊び (2)　生活習慣の確立 (3)　社会性の発達への関わり 4　家族へのケア (1)　育児不安 (2)　母子相互関係 (3)　親子・家族関係 5　おこりやすい事故の予防と対策 (1)　自己の状況 (2)　予防と対策	講義	外部講師 ②吉村さと子	

		６　危険な徴候と予防的ケア ⑴　感染症 ⑵　う歯 ⑶　栄養障害			
7	ハイリスク乳幼児への支援	１　援助の基本 ⑴　ハイリスク新生児に行われるケアの原則 ⑵　ハイリスク新生児のフォローアップ ２　ハイリスクな状態にある乳幼児へのケア ⑴　低出生体重・早産で出生した児 ⑵　発達障害がある児 ⑶　障害児や予後不良時 ３　特殊な状況にある児へのケア ⑴　ひとり親家庭 ⑵　在日外国人家庭 ⑶　在宅医療 ⑷　被虐待児	講義	外部講師 ②吉村さと子	
8	試験（1時間）	筆記試験		専任教員 ①山田有加 外部講師 ②吉村さと子	

評価方法
　筆記試験 100 点
（専任教員①、3～5、　外部講師②2、6～7）

教科書・参考図書
　助産学講座３・８
　助産師基礎教育テキスト６・７
　写真で見る乳児健診の神経学的チェック
　母子保健マニュアル

☆担当教員の実務経験	①②助産師として医療機関に勤務した経験を生かした授業展開をする。